

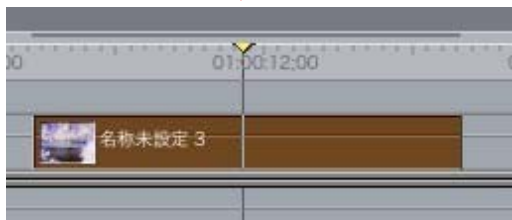
# FxScript Trial

## PictureFlexDV

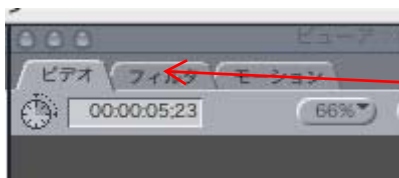
- ・ フィルターの設定
- ・ プラグの機能
- ・ ナビゲーション機能の解説

# Filterの設置

まずプラグをライブラリー→Application Support→Final Cut Pro System Support →Plugins に入れる。  
そしてFCPを立ち上げる。（プラグは起動したときしか読まない）

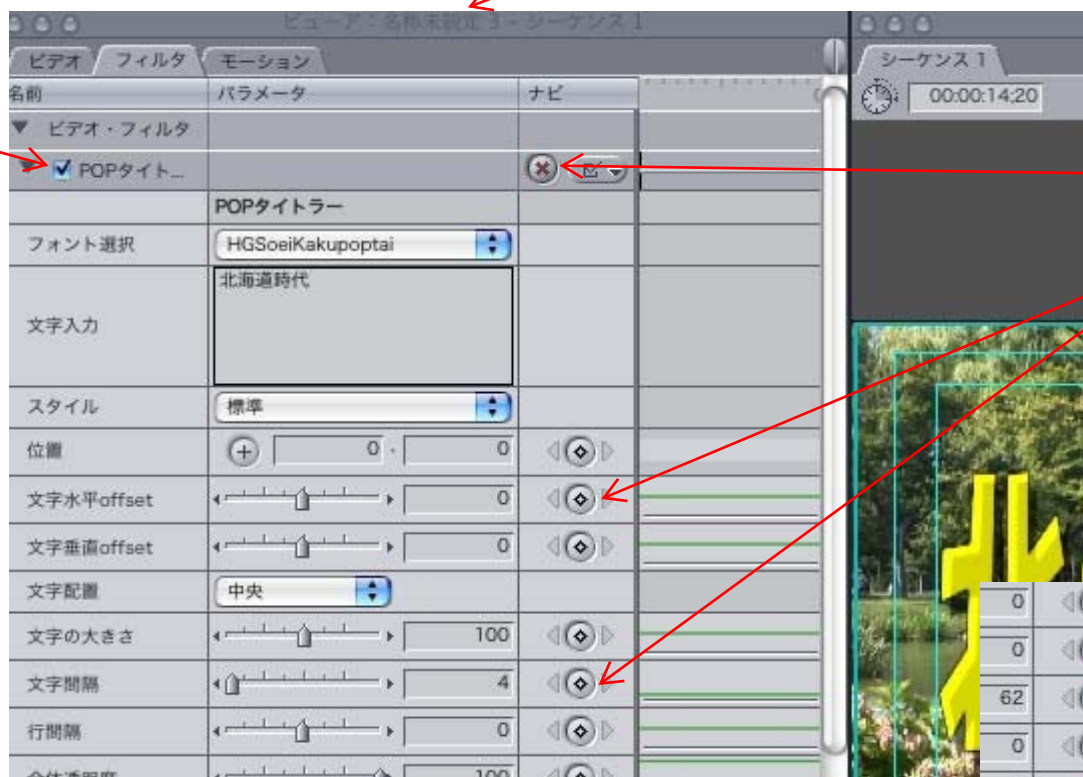


次にシーケンス上の映像をクリックして上方のエフェクト内のフィルターを選びFxScript Trial内の効果を選択する。



フィルターがセットされたのでビューアーのフィルターを押す。

ここを押すと効果がパスされる



ナビゲーション

ここを押すとナビゲーションの設定が全部クリアされる

項目ごとに設定

シーケンスの映像の進み具合に応じて数値を変化させる。これでレンダリングをかけると連続的に効果が変化する。



画像に設定されたプラグ

## PictureFlexの動作原理

FCPのシーケンス上に置く読み取り素材はNTSC/DVの場合は720\*540、非圧縮の場合は720\*547と定められています。これはよく見ると現行のNTSCテレビ方式の4:3の比率を維持しています。  
(丸などのイラストを720\*480で書いて取り込んでも決して丸にはならない経験がありませんか?)  
またシーケンスに置かれた画像は解像度とは全然関係なしに720\*540のピクセルデータで取り込まれます。(解像度に直すと72dpi程度です)

そこで編集方式に合わせたプレートをシーケンスに置きフィルターをかけたらいけるのではないかという着想が生まれます。つまり絶対的なNTSCの大きさを保持してフィルターで大型静止画面をコントロールする発想でPictureFlexは生まれています。

大型画面を縮小してトリミングしても素材が大きければピクセル的には何の問題もありません。プレートに落としてチェック画面で出る枠がNTSCで出力する枠です。

大事なことは編集方式にあったプレートをシーケンス上に配置し  
プレートの必要秒数を設定し(ビューアで出来ます)  
フィルターを設置し  
挿入した大型画像の縦横の正確なピクセルを入力すれば  
編集において大型画像を自由にハンドリングすることが可能なわけです。

大型静止画像の大きさ

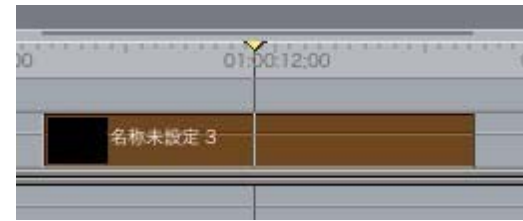


プレートの大きさ  
ここではDVサイズです。  
内側からスーパー安全フレーム  
テレビ安全フレーム  
テレビ絶対フレームの順で  
白枠線が設定されています。

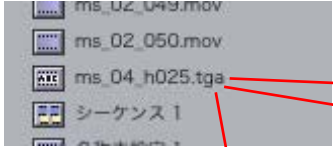
# PictureFlexDV

これを外すとパスされます

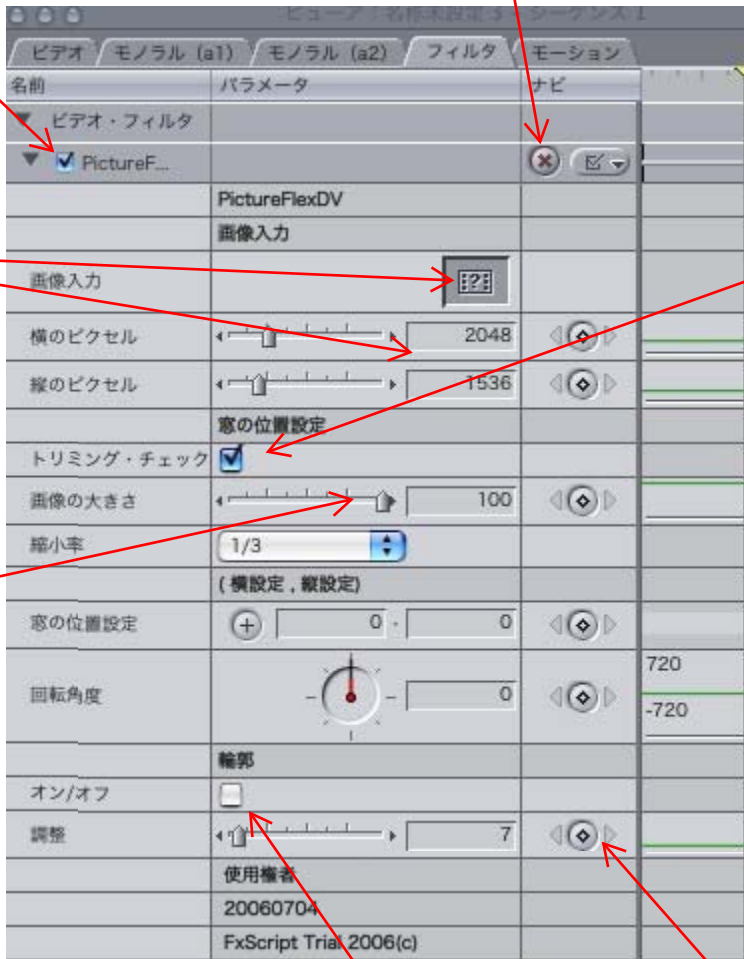
これを押すとナビがクリアされます



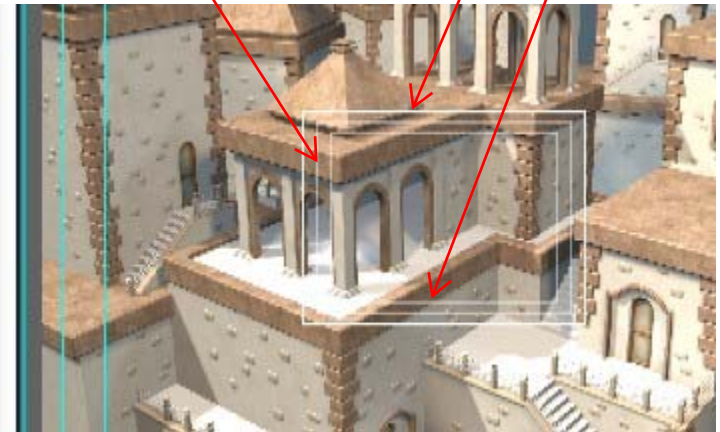
最初に編集フォーマットに応じたプレートをシーケンスに置き必要な秒数をビューアで設定してください。プレートにフィルターをかけます。(フィルター設定を参照してください)



画像データを画像入力に



チェック内の絵が出力される。内側からスーパー、TV安全フレーム、切り取られる映像フレームです。チェックを外すとこのフレームで出力されます。



チャック枠の大きさをしながら大小の調整

画像のオリジナルサイズを入力



ピクセル入力は最初の設定だけです

これはナビの設定です。このボタンがあれば時間の進行に伴い動きを設定できます。

回転などで絵がぼけた感じになったら輪郭をかけることができます

デモ映像とご購入はこちらをクリック

FxScript Trial

# PictureFlexDV の使い方

このプラグは以下の順序で設定してください。

フォーマット・ホルダーの中には次のデータが入っています。

使用している方式	シーケンスフレーム	グラフィックフレーム
601 NTSC 4:3	720*486	720*547
601 NTSC16:9 アナモフィック	720*486	853*486
<b>DV NTSC4:3</b>	<b>720*480</b>	<b>720*540</b>
DV NTSC4:3 アナモフィック	720*480	853*480
601/DV PAL4:3	720*576	768*576
601/DV PAL4:3 アナモフィック	720*576	1024*576
720p	1280*720	1280*720
1080i/p	1980*1080	1980*1080

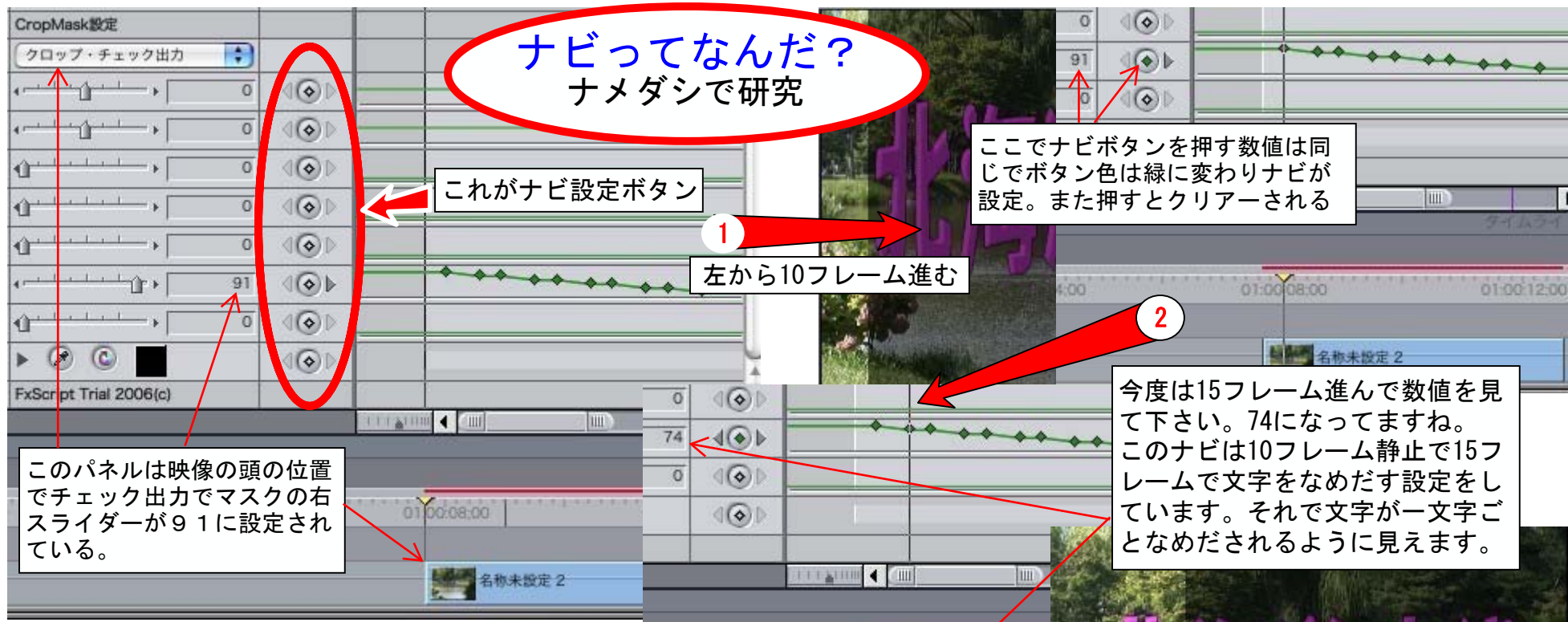
この項では赤字の **DV NTSC4:3** の説明を行います。他の方式も同じですので使用方式によってグラフィックフレームを使い分けてください。

## 設定方法

- ★ まず 720\*540 を FCP に読み込んでください。
- ★ 次に読み込んだグラフィックフレームをシーケンスに置き必要な秒数をセットします。  
(読み込み設定で静止画の秒数の設定がありますがビューアで変更できます)
- ★ シーケンス上のクリップとなったグラフィックフレームにエフェクト→ビデオ・フィルタ→FxScript Trial 内にある PictureFlexDV を選択します。
- ★ そしてクリップをクリックするとビューアにビデオ、フィルタ、モーションが現れますのでフィルタを選択すると PictureFlexDV の操作盤があらわれます。
- ★ まず使用する画像をマウスでつまみ画像入力に落とします。
- ★ 次に落とした画像の横と縦のピクセルを入力してください  
(デフォルトでは 2048\*1536 に設定してあります)
- ★ これでセンターに白枠線のあるチェックモードがあらわれました。枠線は内側からスーパー、TV フレーム、全画角となっています。(この場合は DV のフレーム)
- ★ 位置をトリミングしてチェックを外すと DV のフレームとなって現れられます。
- ★ 回転は位置を中心とした設定ですのでまず位置をあわせてから角度を設定して下さい。

## 注意

- ★ ナビをつかった動作は DV のスキャンラインと干渉しジャギやモワレなどが出力されることがありますのでご注意ください
- ★ デモを使い込んで納得してから購入してくださいね。



ナビってなんだ？  
ナメダシで研究

これがナビ設定ボタン

1  
左から10フレーム進む

ここでナビボタンを押す数値は同じでボタン色は緑に変わりナビが設定。また押すとクリアされる

このパネルは映像の頭の位置でチェック出力でマスクの右スライダーが91に設定されている。

2  
今度は15フレーム進んで数値を見て下さい。74になってますね。このナビは10フレーム静止で15フレームで文字をなめだす設定をしています。それで文字が一文字ごとなめだされるように見えます。

右のタイミングをそのまま進めて最後の一文字まで行った設定。数値が24.5まで変化しているのがわかります。

3

デモ映像を見る  
クリック



**ナビゲーションの説明**

ナビは最初にボタンを押したら設定モードに入り時間軸を進めるに従い数値を変化させるかナビボタンを押すことで設定されます設定が終わったらレンダリングをかけるとポイント、ポイントのキーフレーム（ナビで設定した位置）間が自動的に計算され動きが連続して見ることが出来るようになります。

フィルター系のプラグでナビボタンのあるものは全てナビ設定が出来、連続して効果をコントロールすることができます。

